

# FUJITSUファミリー会論文

## 2018年度受賞者座談会

ご参加いただいた方々



T&D情報システム株式会社  
伊藤 隆郎氏



T&D情報システム株式会社  
川西 あゆみ氏



ジスイنفオテクノ株式会社  
田口 慎一氏



FUJITSUファミリー会 論文委員長  
東洋大学 総合情報学部 教授  
島田 裕次氏

2018年度は一般論文21編、新人賞11編の応募があり、優秀論文2編、秀作論文2編、新人賞5編が入賞論文として選定されました。今回は優秀論文に選ばれた2組3名の方と、論文委員長の島田氏にお話をうかがいました。

富士通フォーラム2019で行われた優秀論文2編の発表の様子は、動画で視聴できます。

「生命保険における引受査定業務の自動化・スピードアップ」



「ICT子会社における企画提案力強化の取組みについて」



### 2019年度 論文募集中

論文募集の詳細は、  
本誌P17をご覧ください。

#### 入賞を目指すのなら 論文の論点は明確に

**島田裕次氏(以下 島田)** ファミリー会論文の目的は、ユーザー会員企業の人材育成です。仕事でまとめた成果を会員企業の方々と情報共有して、それぞれが参考になる事例を活用していくことが目的の1つです。2018年度はテーマをIT関連に絞りましたが、優秀論文に選ばれた2組のように、論点をはっきりして論理的に構成されているかが入賞か否かの境目になりました。

**伊藤隆郎氏(以下 伊藤)** 論文『生命保険における引受査定業務の自動化・スピードアップ』は、ハンディースキャナを導入して業務をスピードアップ、非定形OCR(画像の中の文字を解析してテキストデータに変換する機能)技術を活用して自動化、自動引受査定エンジンを導入して査定を自動化、という3つの取り組みを中心に構成しています。これらを公表したところ同業他社から多くの問い合わせがあり、情報発信をしたという気持ちになったことから、ファミリー会論文に応募しました。

**川西あゆみ氏(以下 川西)** 生命保険会社のシステム開発・運用を受託していますが、生命保険申し込みの

手続き業務のスピードアップが課題でした。そのシステム作りに携わった経験を活かして主に論文の執筆を担当しました。

**島田** この論文は、どこの会社でも重要となる業務効率化を取り上げた点が今の時代にタイムリーな話題だったと思います。自動化の工夫がよくわかり、図を用いて論点をきちんと整理しています。入力件数などのデータ量を示せれば、どのようなシステムや業務があるのかももっと明確になるでしょう。全体的にわかりやすくまとめられた論文です。

**田口慎一氏(以下 田口)** 論文『ICT子会社における企画提案力強化の取組みについて』では、業務・ニーズ・技術・付加価値の4つの観点で施策立案しPDCAサイクルで改善を図る中で効果が高かった事例を紹介しています。実践を通して得られた施策の有効活用に関する気づきも論文で述べました。

**島田** 1990年代に多くの企業が設立し30年前後を経たICT子会社を親会社が評価をする動きが活発化しています。重要なテーマを論点にしたところが評価できる点です。改善の内容を具体的に説明するとさらに良い内容になるでしょう。提案力を主題にした論文は少なく、その点も評



座談会風景。優秀論文受賞者と論文委員長が論文について語る



受賞者にはファミリー会の内田会長から表彰状が授与された



2018年度入賞論文の受賞者表彰。充実感いっぱいの表情が印象的

価のポイントとなりました。

### 個人でも共著でも、まずは全体像を明らかにすること

**田口** ICT子会社10数社で2014年から改革に取り組むための勉強会を始めています。そこで得た成果を後に続く人たちに残すことを目指して論文にまとめました。複数名での共著なので、各人から送られてくる文章を編集し、まとめるのに苦労しました。

**島田** 複数で論文を作成するには、田口さんのようなとりまとめ役が必要です。文章表現は人それぞれ個性があるので、まとめる際には中心となる人物が欠かせません。個人で執筆するときでも同じですが、論文の全体像を明確にしておき、各モジュールで何を書くのか内容を割り当てながら執筆することが大切です。

**伊藤** 書きたいことはたくさんあるのですが、本当に言いたいことはどれなのか、取捨選択するのは難しいですね。専門用語は一般には通用しない言葉なので、伝わる言葉へ言い換えることも苦労する点です。

**田口** 言いたいことや誰に読んでもらうのか、もっと明確に決めてから

構成を考えておけばよかったなど今になって思います。論文の執筆スキルは主張を伝えるスキルです。報告書やプレゼン資料の作成にも活かすことができるので、これからも続けていきたいですね。

**島田** 日ごろから問題意識を持ち、情報収集しておくことが論文執筆には必要です。仕事をしながら疑問を抱くことがあると思いますが、これを書き出しておき、アイデアをまとめるのに使うことは有効です。

### 優秀論文2編の アピールポイントとは

**伊藤** 今はどの仕事でも自動化やスピードアップに取り組んでいかなければいけません。生命保険の引受査定業務のシステム作りでは、前例がない中で運用につなげ改善を重ねて通常運用へと至りました。今回の論文では、新しいシステムを作ったこと、それをまとめたことが良い点だったと思います。

**川西** OCR技術はどの企業でもやられていると思いますが、生命保険業界“初”のシステムとして論文にまとめられたことがアピールポイントになったのだと思います。

**田口** 企画力・提案力といった論文

は珍しくありませんが、ICT子会社に着目してその価値について言及した論文はこれまであまりないのではないのでしょうか。その辺りが他の論文と違うところです。

**島田** 他の人がやらないことをやるのは非常に大事です。審査していてもおもしろいと感じる論文は、失敗をいかに乗り越えたか読み取れるもの。会員企業の皆さんも参考になります。

**伊藤** 論文ではひと言で伝わるような表現に整理することを求められます。題材が良くてもその“ひと言”が生み出せないか書いている当人もしんどくなります。論文に応募するには、その辺りの整理が大切です。

**川西** 材料集めを早めに行うことが論文作成のポイントです。そうすれば気持ちに余裕が生まれ、じっくり執筆することができます。

**田口** 普段の業務や課題に取り組む時に、論文にまとめるために仕事をすくらの気持ちを持っているといいと思います。大きな失敗をした時も論文のネタになると思えば、前向きになれるですね。

**島田** 仕事には唯一絶対の答えはなく、問題を自身で搜していかなければなりません。そんなことをぜひ論文にまとめてみてください。